

リン欠乏

症状の特徴

- 1) リン欠乏では最初に株全体の葉身の光沢が無くなり、濃緑色を呈する（写真3）。
- 2) 古葉から葉脈間に赤紫色を帯びる症状が現れる（写真3、4）。
- 3) 新葉では生長が著しく抑制され、小葉化する。
- 4) 症状が進むと古葉から枯死が進行し、最終的には株全体がしおれる様に枯死する（写真5）。
- 5) 葉脈間は赤紫色から赤色へと変化するとともに、赤色化した部位の周囲が黄化し、さらにネクロシスへ症状が進行する。古葉の葉縁部にもネクロシスが観察される（写真6、7）。

発生しやすい条件

- 1) 一般にリンを固定しやすい火山性土壌や水田転換畑圃場では、作物に吸収されやすいリンが少ないことから、リン欠乏の発生頻度が高い。
- 2) リン吸収が抑制される低温時に起こり易い。
- 3) 土壌pHが極めて低い酸性化した土壌で発生しやすい。

リンの役割

- 1) リンは核酸や細胞壁の構成成分であり、特に細胞の増殖が盛んな生長点付近に移行して集積する。
- 2) 欠乏すると生育が抑制されるとともに、古い葉から生長の盛んな新しい葉へとリンが移動するため、症状は一般に古い葉から現れる。



写真3 葉身の光沢が無くなり、濃緑色になる。
葉脈間の赤紫色化が始まる。
(5週目 -P5週目 エッチェス-138)



写真4 葉身の光沢がなくなり、古葉の葉脈間は
赤紫色化が進む。
(10週目 -P5週目 カレイニャ)

リン欠乏の症状（その1）



写真5 症状が赤紫色からネクロシスに進行。古葉から枯死する。
(15週目 -P10週目 カレイニャ)



写真6 症状が進むと葉脈間は赤色化し、赤色化した部位の周囲が黄化する。古葉の葉縁部からネクロシスが現れる。
(22週目 -P12週目 カレイニャ)



写真7 葉脈間は赤色斑と黄化症状がネクロシスに変化する。
(22週目 -P12週目 カレイニャ)

リン欠乏の症状（その2）